

議会報告会と町民との意見交換会 調査、検討結果報告

意見交換会
テーマ

町議会議員の定数・報酬について

平成30年5月29日（文化センター）と5月30日（御影公民館）に議会報告会と町民との意見報告会を開催し、延べ39名の方にご出席いただきました。

意見交換会での質疑、意見・提言等と、その調査、検討結果等を報告書にまとめましたので、概要をお知らせします。

※報告書の全文は清水町議会のホームページ又は役場3階の議会事務局でご覧になれます。

議会に対するもの①（議会活性化特別委員会で調査、検討）

質疑、意見提言等	調査、検討結果
<ul style="list-style-type: none"> 報酬は現状のまま、定数は10人くらいでいい。なり手不足は心配だが、土・日曜日に議会を開催するなど工夫しては。なぜ議員にならないのかの声を拾わないで、ただ報酬を上げることにしない。 なり手不足の原因は報酬ではなくやりがいの不足だと思う。 少ないというのであれば報酬を上げてほしい。ただし一律ではなく若い人に分配を多くしてほしい。 議員がどの程度働いているかわからない。民生委員等の報酬を先に考えて最後に議員ではないか。町長等の給与も変わってくると思う。 報酬を上げたい理由がわからない。議員のなり手がいないから、十勝管内の中で低いからと聞かせる。 議員報酬が上がったから議員になろうという人はいないと思う。 自分から議員になるのは何人かで、地域から推薦を受けて出る場合が多い。今の定数で運営できるのか整理してから意見をもらわないといけない。 議員の活動が町民には見えづらいが、報酬は議員の中で調査をして出した金額でいいのではないか。 報酬の引き上げを考えていくべき。 議会活性化特別委員会が示している案に賛成するが、議員のなり手不足の要因は別のところにあると思う。 定数13名の根拠は何か。報酬を上げたらもっと勉強できる、もっと本も読める、そういうものがあるのか。 報酬を上げるのはいいが、定数を減らしてと考えていた。定数を減らすのは難しいということなのでスッキリしない。 報酬を上げるのになぜ定数は減らさないかという意見が出るのではないか。 定数を減らして報酬を上げては。 報酬が適当かどうかはわからないが、今までどおりで十分だと思う。財政難のことも考慮してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 議員のなり手不足にはさまざまな要因があるが、議員定数はより多くの町民の声に耳を傾けるため、更に3常任委員会・議会運営委員会の活動も考慮して現状の13人のままの結論になった。 議員報酬については、十勝町村議会議長会が作成した議員報酬（月額）「十勝標準」を参考に本町議会議員の活動量に応じた報酬月額を試算して引き上げの案（議員は203,000円）を示したが、議会報告会と町民との意見交換会及び議会活性化等の町民アンケートにより町民意見の聴取を行ったところ、一定の理解は得られたが大多数の方の理解を得るまでには至っていないと判断し、現状維持の結論になった。



委員会 レポート

総務産業常任委員会と厚生文教常任委員会は、委員会活動として閉会中に行った所管事務調査の内容を、第6回定例会において報告しました。

※内容は要約されています。報告書の全文はホームページでご覧になれます。

総務産業常任委員会 調査報告

台風災害の復旧状況と共栄橋の被害状況

〔台風災害の復旧状況〕

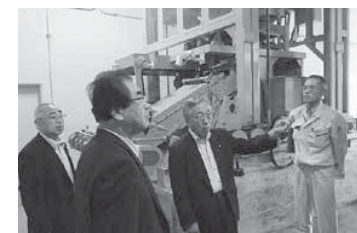
①建設課
町発注の工事はほぼ完了しているが、ペケレベツ川に関わる橋梁架替工事は北海道が実施する河川改修に合わせ実施するため完了予定が遅くなっている。開通予定はペケレベツ橋と新錦橋が平成31年12月、錦橋が平成32年3月、石山橋が平成

32年12月となっている。

②水道課
水道施設の復旧は、配水管路、取水施設の頭首工ともすべて完了している。農業用水施設の復旧はほぼ終了し、調整池から下流部の配水管路は全線終了している。導水管路は仮設水源を撤去して完了となり、円山調整池は今年度末

までに完了する予定となっている。

③農林課
排水路の復旧は、最終工期に合うよう各工事が進んでいる。農地の復旧は道営を含め全て完了している。町営育成牧場も道路・農地ともに復旧している。復旧後の農地については、災害に強く生産性の高い農地づくりに取り組んでいる。また、北海道・JA十勝清水町と連携しながら、農



担当課の説明を受けながら被災箇所の復旧状況を確認

地へのフォローアップとして生産者への指導・支援を行っている。
【共栄橋の被害状況】
橋脚1基が1メートル程度沈下・傾斜し、通行止め措置を行っている。

ているため、地域社会経済に大きな影響を与えている。
復旧工事の概算工費は約6億円で、工期は検討中であるが2か年を予定している。
【総括】
北海道が実施主体の橋梁工事等についても細かい情報発信を望む。町直轄の災害復旧事業はほぼ完了との報告を受けたが、共栄橋のようなことも想定されるので、日々の点検をしっかりと行ってほしい。

厚生文教常任委員会 調査報告

福祉施設の人材育成・確保の取り組み

本町において平成29年7月から、介護従事者の人材確保・育成及び定住促進を目的に、介護人材育成確保事業を実施している。

上2年以内の退職は2分の1を返還する制度となっている。平成29年度は7事業所に37万円（8名分の助成を行っている。実際には8事業所から10名分の申請があったが2名分が1年未満の退職により全額返還となっている。人材確保・育成の取り組みを進めるために

市内にプロジェクトチームをつくって検討しており、その取り組みの一環として、病院等を除いた14事業所に介護人材の確保・育成に向けたアンケート調査を実施している。



町内の福祉施設2か所を視察し、意見交換を行った。

と伺った。
「小規模多機能型居宅介護事業所松沢の郷」と「グループホーム松寿苑」では、他の事業所と比較して人材には恵まれているが人員は足りなかった。
福祉施設の人材確保については、現在においても採用が難しい状況であり、将来においては更に困難になると思われる。
プロジェクトチームを組織して検討しているが、医師確保を含めた中で将来の対応策を考えるなど、更なる努力が必要である。